

「安心・安全に貢献するセンサ」 施設園芸環境システム業界事例紹介

工程

・施設園芸で使用される養液の残量管理

現状の課題・要望

- ・施設園芸で使用される養液の液面管理を目視でされている場合、残量確認に行く手間がある。
- ・他の接液タイプのセンサで検出している場合、養液で劣化していき誤動作する場合がある。
- ・養液なので、なるべく、非接触で残量を管理したい。

改善メリット

- ・養液タンクの外側に貼り付けることができる非接触式センサより、養液によるセンサの劣化が発生しにくく誤動作しない。
- ・センサで残量管理をすることで、タンクの蓋を開けて確認する手間がなくなり効率的な作業が行える。

安心・安全

- ・常にセンサで養液の残量を管理できることにより養液がなくなって、野菜などの発育に影響が出るようなことがなくなり安定した栽培に貢献できます。

事例図

【From】

- ・タンク内の養液を見に行く手間がかかる



【To】

液面レベルセンサ



タンクの外に貼り付けるだけでタンクの色に関係なく、中の養液の残量を監視できる。

IoTのアプリケーションと連動すれば遠隔地からでも液面を監視できる。